

# フェアトレードとエシカル消費で静岡の未来をつくる

フェアトレード

普及・啓発

## 静岡県立駿河総合高等学校(M-SIPP)

所在地：静岡県静岡市駿河区有東三丁目4番17号  
沿革：平成25年4月開校。静岡県立静岡南高等学校(昭和58年4月)と静岡市立静岡高等学校(昭和3年11月)の流れを汲む。(当該活動の開始時期 平成24年度～)

学科：総合学科

生徒数：3年13名(M-SIPP・平成30年4月1日現在)

### ○事業・活動の概要

M-SIPPは、「M・未来の、S・静岡を、I・アイデアで、P・プロデュースする、P・プロジェクト」の頭文字で、「課題研究」の授業において、世界を視野に入れ、持続可能な社会に向けて高校生ができることは何かを考え活動している。

平成24年にテレビでペルーのフェアトレードのコーヒー豆の話を見たことをきっかけに、フェアトレードについて広めたいと、説明資料を自作し、静岡市内のカフェでフェアトレードのコーヒー豆を仕入れてもらえるよう呼び掛けを始めた。現在、エシカルすごろくなどの啓発資材の作成なども行っている。

### ○エシカル消費の発信

フェアトレードの普及・啓発のため、イベントにおいてフェアトレードのコーヒーやクッキーなどの商品販売を行っている。平成29年度には、フェアトレード商品を取り扱う事業者と共同で商品開発を行い、本来なら廃棄されてしまうフィリピンのアルミのジュースパックを再利用して作ったクリアファイルを作成し、平成30年5月に開催された一般社団法人エシカル協会主催のエシカルフェスタにて販売した。平成30年6月に静岡新聞社が開催した「こども未来プロジェクト夏祭り」では、モンゴルの羊毛フェルトを使ったアクセサリ作りの体験コーナーを設けて、フェアトレードやエシカル消費についての説明を行った。

このほか、小・中学生への普及・啓発活動にも力を入れようと、マスに止まるとエシカル消費に関連するクイズが出題されるエシカルすごろくの作成にも取り組んでいる。



これまで、実際にエシカルすごろくを活用した事例はないが、自分たちの出身小・中学校に対して活用してもらえないか、夏休み期間中に交渉を行う予定であり、今後も活用の働き掛けを行いたいと考えている。

### ○活動に対する生徒の声

授業では、M-SIPPを含む5つのグループに分かれて活動を行っている。SDGsや世界の社会問題について学び、高校生が社会の課題に対する解決方法を考えるという、学びと社会貢献が同時にできるため、M-SIPPの選択希望者は多い。生徒の1人は「1回の活動で終わらせるのではなく、自分たちが行ってきたこと、作ったものを実績として残し、後に続けてもらいたい。」と考えている。

### ○学校内におけるエシカル消費

静岡県立大学公認サークル「NGOあおい」の学生に児童労働問題について出前講座を依頼する等、学校内での普及・啓発活動にも意欲的に取り組んでいる。

また、平成27年度から、本来なら廃棄されてしまうオーガニックバナナの茎から作られた、フェアトレードの「バナナペーパー」を卒業証書に採用している。現在では教員の名刺もバナナペーパーで作成している。

### ○東京オリンピックに向けて

小型家電等には金や銀等の資源が含まれており、都市鉱山と言われている。同校は、東京2020組織委員会が実施する「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」へ参加予定であり、校内に回収ボックスを設置し、金メダル1枚を作成するための目安である携帯電話300台の回収を目指す。

### ○課題と今後の目標

エシカル消費に関連したイベントにはエシカル消費に関心の高い方が集まるが、地元の祭り等のイベントでは、エシカル消費を知らない方が集まることから、自分たちが伝えたいことをどのように伝えていくかが課題となっている。

また、課題研究は高校3年生の取組であることから、活動期間が限られており、先輩の企画した取組・商品を次年度に後輩が引き継ぎ実施・販売する、といった体制となっている。今後は、企画から実施までの時間を短縮し、単発事業として終わらせないためにも、地元企業の協力の下、フェアトレードの大豆を使った商品の開発をするなど、継続的な取組を実施していく予定である。

公表日：平成31年2月4日 取材：平成30年7月「エシカル消費自治体サミット(徳島県主催)」にて  
外部リンク：<http://www.edu.pref.shizuoka.jp/surugasog-o-h/home.nsf/>